活動報告2020

7月-9月期

POW

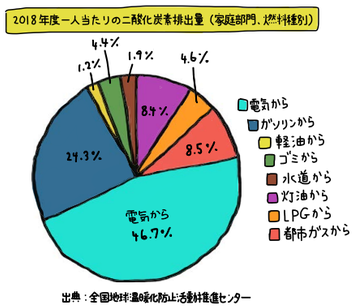
PROTECT OUR WINTERS.JP

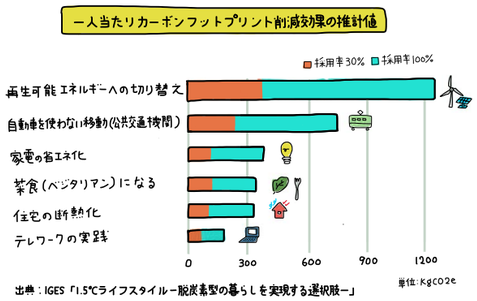
Photo: Tomoki Fuse

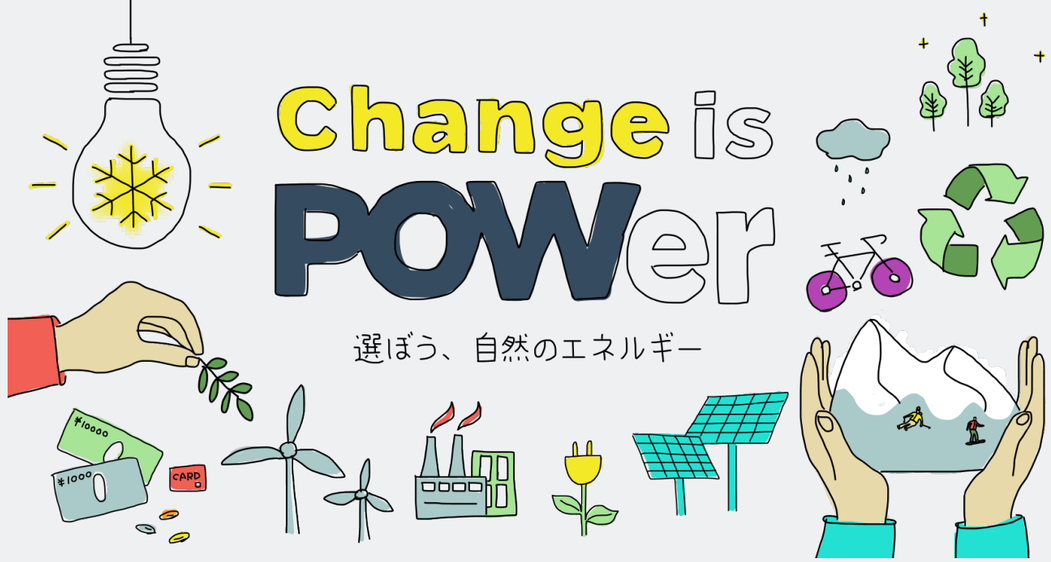
Change is POWer キャンペーン

268人が再エネへ切り替え!

2020年7月、私たちは「Change is POWer～選ぼう、自然のエネルギー」と題して、皆さんに再生可能エネルギーへの切り替えを後押しするキャンペーンを実施しました。
なぜPOWが電気の切り替えを案内するの？と疑問に思った方もいらっしゃるかもしれません。気候変動問題を解決する１つの鍵として、私たちに求められているのが「CO2の削減」。家庭から排出されるCO2のおおよそ半分が「電気」からなのです。それは、日本の電源構成比において石炭や石油などの化石燃料に依存していること深く関係しています。いまや私たちの暮らしに欠かすことのできない電気を「再生可能エネルギーへの切り替える」ことで、CO2の排出を削減できる。しかも、とっても簡単。電力会社を選び、ネットや電話で申し込んで切り替えを待つだけ。家の中の工事は必要ありません。「気候変動問題から雪を守るために何をしたらいいの？」という方々に、簡単でとても効果的なアクションをご紹介することで背中を押したい、そんな思いからこのキャンペーンはスタートしました。
このキャンペーンをきっかけに切り替えを表明してくださった268人の方、賛同してくださったパートナー企業のみなさまに改めて感謝申し上げます。目標は1,000人、これから切り替える方にもオリジナルステッカーをプレゼントしていますので、ぜひご検討ください!
Change is POWer 特設サイト:
https://protectourwinters.jp/change-is-power/







切り替えた人の声

「以前から再生可能エネルギーへの切り替えを漠然と考えていましたが、なかなか実行に移せずいました。今回ＰＯＷの情報、皆さんのコメントやキャンペーンに後押しされて切り替えしました！ありがとうございます!!」

「地球環境はもはや待ったなし！過去を悲観するよりも、これからできる事を一つ一つ着実にやっていこうと決意しました。来年も10年後も自然の中で遊ばせてもらえる環境を残せるかは、私達一人一人の行動と選択にかかっているのですね。」

「自然に活かされながら、環境を守っていく、地球とうまくつきあって生きていく。環境を意識した活動がビジネスとして有効なのだということを、消費者として参加していくことで、証明していきたい！」

「コロナもあって在宅時間が増え電気使用料も増えたのに、電気代は安くなったことに驚き。例えばメガソーラーじゃない太陽光発電を選ぶ、などこだわりを持って中身を見ていく面白さもありました。」

私たち一人ひとりのアクションに加えて、さらにインパクトがあるのが、企業や自治体での再エネへの切り替え。そして日本全体が石炭火力への依存から再生可能エネルギーへの転換を求められています。POWのパートナーでもあるSTATICやGENTEMSTICKも再エネに切り替え済み。HAKUVA　VALLEYのスキー場でも再エネへの切り替えが続々と行われています。スキーヤー／スノーボーダーである私たちが、声を上げて応援しましょう!

01

アウトドア販売
STATICBLOOM

田中さん

“再エネへの切り替えは、日々の暮らしの中で「地球温暖化」抑止のために「コンスタントに」「無意識に」できる事を考えた結果です。一旦切り替えをすれば終了。しかも手続きは簡単。これまで通りの暮らしを大きく変えずとも貢献できるとなると、やらない手はないワケです。気になったのは、電力料金の変動。しかし、現実はほぼ変化がありませんでした。あとは、降雪の度に「切り替えたおかげ」と自画自賛して滑るだけです(笑)。
そもそも所謂インフラを切り替えるというのは、人生でそう機会は多く訪れません。また、目に見えないものを変える事でもあります。そこを考える事で、自身の暮らしの価値やスタイル、目にして手に触れるものへの見方を様々な側面から考え直すことにも繋がりました。これからは、挨拶代わりに「電力切り替えた?」の時代です。

02

国産スノーボードブランド
GENTEMSTICK

千葉さん

“弊社も自然エネルギーの電力へ切り替えました。再エネ率100%プランへ変更し電気料金を比べてみると、ニセコでも湘南でも料金が下がりました。私たちの仕事は自然とともにある仕事なので、この結果をもってしても、自然エネルギーの電力へ変えない理由が見当たりませんね。電力会社を変えるよいきっかけ、どの電力会社が良いか検討するきっかけを与えてもらってありがとうございました。

HAKUBA VALLEY
再エネ切り替え導入のイマ!

全国のスキー場に先駆けて、「冬を守るため」に行動を起こした3つのスキー場に、エールを送りましょう!

白馬五竜エイブルスキー場

ナイターゲレンデ

再エネ 100%利用

白馬八方尾根スキー場

全リフトの

50%が 再エネ利用

そのほか八方尾根開発が所有する温泉施設、従業員寮、スキー場内レストラン、事務所などでも、68%で再エネ導入を手続き中。

白馬岩岳スノーフィールド

スキー場全体の

約10%で 再エネ利用

ローカル×アンバサダー

誰よりも雪上で時間を過ごしてきたアスリートたちがローカルでムーブメントを起こす。各地のアンバサダーが動きはじめています。

01

野沢温泉村 × アンバサダー河野 由貴子

NOZAWA × YUKIKO KAWANO

「野沢温泉のお母さんたちに向けて気候変動について話してくれない?」アンバサダーの河野由貴子から声がかかった。そして9月某日、野沢温泉村にて「Momsミーティング」を開催。POW　JAPANは気候変動の科学や現状についてデータを使ってプレゼンテーションを行い、その後は「井戸端会議」と題して、グループに分かれて野沢温泉で感じる自然環境の変化、子どもたちの未来についてディスカッションした。自分が暮らす場所で、身近な人たちと環境のこと、気候変動のことについて話し、未来について語りあう。一見ハードルの高いことに感じるが、話してみれば「野沢温泉の豊かな自然を子どもたちの未来に残したい」という思いは同じ。次のアクションのアイディアまで自然と出てくる、とても有意義な時間だった。Moms　ミーティングを終えて、発起人の河野に企画の背景や今後のアクションについて話しを聞いた。

村内のお母さんたちと一緒に気候変動について学び、考えたいと思ったきっかけは?

日々、暮らしの中で常に子供たちを想い、その未来を考えるのは親として当然のことです。POW　JAPANのアンバサダーに就任し、HOT　PLANET COOL　ATHELETE(環境教育プログラム）を受けて、自分の中に生まれた「想い」をまわりのママたちと「共有したい」と強く思いました。気候変動やその影響による自然環境の変化はなんとなく感じていたものの、具体的な行動に変えるのは難しい部分もあります。今のライフスタイルを変えることは簡単ではありませんが、お互いの思いや意見を出し合い情報共有することで、暮らしに根付いた行動に変えていけるのではないかと思いました。まずは雪や自然の大好きなママたちと繋がり、地域の皆さんと連携して「共に」この問題に向き合ってみたいと思い開催しました。

MOMsミーティング当日の様子や、その後の変化は?

参加してくださったママたちは、興味を持って集中して真剣に聞いてくださっていたのが印象的でした。気候変動の影響や現状が写真やデータで分かりやすく伝えられ、グループワークでは気候変動問題や、子供たちの「雪のある」未来に向けてどんどん意見があふれてきました。そんなママたちの想いにふれて私自身も良い刺激をいただき、次への一歩を進めていくきっかけになりました。もっと多くの人に伝えて繋がっていきたい、そして少しずつでも形や行動に変えて実践できる機会を増やしていきたいと思います。その後の会話の中にも、気候変動や自然環境についての言葉が自然と出てくるようになりました。そして、次に何をするのかを一緒に考えていける面白さを感じています。万人に共通する問題なので、より多くの友人や周りの人にも伝え広めて、この地域全体で考えたり取り組みができれば最高だと思います。

今後、野沢温泉でどんなムーブメントが広がっていきそう?

個人的な考えですが、今もこれからもみんなと「共に」取り組み、前に進んでいきたいと思います。野沢温泉には魅力ある自然環境や人の暮らしと文化があります。その真っただ中に生きる私たちは、それを伝えていく中で大自然の恵みに感謝の気持ちをもち、自然の流れにあわせて暮らしていくべきだと思っています。具体的なアクションとしては、「森ブラ☆」（森の中をぶらぶら散策し、森について学び自然を感じる心を育てる）や、マウンテンクリーン活動（春の雪解け時期やグリーンシンズンのごみ拾い）を考えています。POWのアンバサダーや事務局メンバーと、野沢温泉で一緒に滑り雪の魅力を再認識したり、仲間と滑る楽しさをシェアしてもいいですよね。村民だけでなく、村の行政や民間や各団体などがお互いに協力しあい、村としての取り組みも進んでいくことも願っています。

02

白馬村 × アンバサダー大池 拓磨

HAKUBA × TAKUMA OIKE

9月27日、白馬岩岳マウンテンリゾートの山頂で行われた「HAKUBA ヤッホー! FESTIVAL～白馬ノ映画～」。POWアンバサダーが出演するショートフィルムを3本上映。その1つとして、白馬ローカルである大池拓磨のニュージランドトリップの様子を納めたフィルム『Endangered Species』を上映、さらに、大池本人がこの旅のストーリーを語ってくれた。

「ニュージランドトリップのテーマは『環境活動する上での心得を学びに行く旅』。雪山に魅せられ自然を愛するスキーヤーの僕は、温暖化が進み雪がなくなるかもしれない現実を知り、滑り手として何ができるのかを模索し活動する中で、自然界に存在する人間社会への矛盾を感じていました。「ニュージーランドへ行って、氷河にある大きい斜面を滑ろう」という誘いがあり、頭をよぎったのは自然を大切にしている国ってイメージ。雪山を通してニュージラントの生活や文化に触れ、地球温暖化対策に積極的な国の人たちが自然に対してどんな心構えを持っているのか、知りたかったんです。それで新たな価値観を求めて旅をする事にしました。現地では、ソーラーパネルを使って撮影機材用の蓄電をしたり、ベジタリアンにチャレンジするなど、できる限り環境に負荷の少ないライフスタイルに挑戦。そのほかに環境活動家スキーヤーを訪ねて雪山セッションとインタビューを試みました。」

すっかり肌寒くなった岩岳山頂の上映会には、幅広い世代の滑り手やスキー場関係者などが集まった。

「イベント来場されたお客様はニュージーランドに行きたい、スキーが好き、環境問題が気になるという方から、スキー場関係者、小学生まで、幅広い視点で観ていただけた思います。「自然や雪が好き」という方々ばかりだったので。自分自身もトークも楽しむ事ができました。トークショー後も「自分にできる事からはじめてみます」という声を多く聞けて、嬉しく思いました。環境問題への取り組みは、幅広くすべての事に当てはまると思います。それぞれの考えや生活スタイルがある中で、自分の興味のあることからはじめてみることが大事です。環境活動は誰にでもできる、100%を目指さなくても1%からはじめると、いろいろ開けてくると思います。」

「死ぬまで滑り続けたい」と語る大池の、飾ることのない等身大の言葉に、事務局メンバーを含む、その場にいた誰もが心を動かされたはずだ。大池は、雪を愛するひとたち、白馬を訪れる人たちに対して、こう語る。

「雪山に入って自然を感じてください。いろんなことに学びが隠れています。雪と戯れることで地球と一つになる感覚を味わえたらやめられなくなる。スキーやスノーボードは自然や地球とコミュニケーションできるツールだと思います。白馬には自然と戯れるプロのスキーヤーやスノーボーダーが多くいます。POWもスペシャリスト集団です。イベントでも雪山でも気軽に声かけてもらい、雪を大切に思う仲間が増えていき、大きなパワーになる事を願っています。何より楽しむことが大事。自分にとっての楽しみ方をみつけて欲しいです。」

パートナー企業の取り組み

長い間スノボード業界を牽引し、スノーボーダーなら誰もが知るBurton。
実は、製品の製造過程から労働環境に至るまで、自然環境へ負荷を減らすための様々な取り組みが行われています。気候変動に対しても積極的に向き合い、同じ雪山での遊びを共有する仲間として、US本社は2013年からPOWの、Burton Japanは2019年からPOW Japanのパートナーになっているのです。同社のWEBサイトには、従業員／労働者、プレイグラウンド、プロダクトのそれぞれについての「2020年までの達成を目指すサステナビリティのゴール」が明記されており、その進捗状況も確認することができるほど、その取り組みは徹底しています。

エントリーユーザーからライダーまで、幅広いファンを持つBurtonのサステブルな取り組みをより詳しく知るため、コンシュマーブランドエンゲージメント、エンバイロメント部インテグレーテッドマーケティングマネージャーの石原公司さんにお話を伺いました。

「創業者の妻であり、POW USのボードメンバーでもあるドナ・カーペンターの強いリーダーシップのもと、モノづくりから労働環境にいたるまで、サステナブルな取り組みが行われています。プロダクトにはオーガニックコットンを採用しているほか、使用しているマテリアルの78%がbluesign®の認証を受けています。2019年にはBコーポレーション™認証企業として認められ、モノづくりだけでなく幅広い分野において取り組みが評価されていることがカタチになってきました。日本でもUS本社と同じ方向を目指し、できることを考えて積極的にアクションを起こしています。」

2020年7月、Burton Japanのオフィスと旗艦店であるBurton Flagship Naganoは、それぞれの施設で使用する電気を再生可能エネルギーに切り替えたそうです。

「日本でもできることをやってみよう！ということをきっかけに、切り替えを検討しはじめました。いずれも自社ビルでなかったこともあり、交渉が難しいことを想像していましたが、オーナーさんの理解を得られたこともあり、やってみると簡単。電気料金も下がりました。フィールドを守るために、自然環境に与える負荷を抑える。目に見えないことだけれど、こういった取り組みをきっかけにBurtonを使っていてよかったな、と思ってもらえるといいですね。」

Burton Japanは電力切り替えのほか、気候変動に対する具体的な行動にも積極的に参加しています。昨年の9月20日に全世界で行われた「グローバル気候マーチ」に参加。マーチ開催に先立って行われた記者会見には、マーチを企画するFriday For Futures（以下FFF）ともに、Burton Japan代表の須川氏も出席。マーチ当日は7つのストアをクローズし、数店舗ではマーチに参加する人に向けてプラカードやポスター作りなどのためにストアを解放、企画に賛同する従業員も各地でマーチに参加しました。

「これまでマウンテンクリーニングなどのイベントをしたことはありますが、ストアをクローズしてアクションを起こしたのは初めて。若い世代の彼らが意識を持って、行動することに私たちも刺激をもらいました。今年の9月25日に行われた「世界気候アクション」では、当日に先駆けてFFFと合同で勉強会を実施。当日までに、SNSや店舗での会話を通して日本政府へ気候変動対策を求める署名活動や、当日のシューズアクションへの参加を促す発信を行いました。会社として積極的に参加することになれば、スタッフは楽しく、クリエティブにやってくれる。そこに” Burtonらしさ”も感じますね。」

石原さん自身も長年、雪に魅了されてきたスノーボーダーの一人。より長くスノーボードを楽しむために、スノーボーダーとサステナブルな価値観も共有したいと、石原さんは語ります。

「山や自然、そこに携わるすべての人に感謝しながら滑ると、ライディングの価値が高まると思うんです。だからスノーボーダーのライフスタイルにサステナブルな意識を取り入れてみてほしい。スノーボーダーは楽しくてクリエティブな人が多いですよね。その人たちが自然と向き合い、未来のことを考えるのはカッコいいことであり、誇れること。そういう人たちが増えていけば、スノーボードも楽しいし、自然環境にも良い、2倍嬉しいですよね。」

「Burtonは製品や取り組みを通して、そうした価値観を共有していきたいと思っています。最近オープンした札幌のストアでは、サステナブルな素材や取り組みなどに関する情報を展示しています。お店に来たお客さんが「これってなんだろう？」というきっかけから知ってもらう、スタッフと会話してもらうことが狙いです。そのほかにも、「壊れたら捨てる」ものを減らし、製品を長く使い続けてもらうために修理対応をしたり、製品のワランティーも用意しています。こうした価値観を伝えて、共感してもらうためには時間もかかる。根気強くブレずに続けていくことが必要だと感じています。」

石原さんが最後に語った言葉は、POWが描くスキーヤー／スノーボーダーの価値観や在り方を表現しています。

「”スノーボードはかっこいい”ということを表現しながら、FFFのように声をあげたり、未来を考えて行動するなど、サステナブルな取り組みをすることが” 楽しくてかっこいい！”という世界観ができるといいですよね。」

スノーボードの魅力を、製品を通して表現するBurtonが、ビジネスを通してフィールドで長く楽しみ続けるために”サステナブル”な価値観や取り組みを提案する。「楽しく、自由な」というBurtonらしさを失わずに、クールな姿勢も貫くBurton Japanと、パートナーとしてよりパワフルな取り組みを一緒に行っていけることに胸が膨らみます。

Our Partners

NEW!!

パートナーのユニフォームにPOWロゴが加わりました！

エイブル白馬五竜（白馬）

FAR EAST SNOWSPORTS（ニセコ）

白馬八方尾根スキー場（白馬）

メディア掲載

FALL LINE 2021 VOL.1

P58-59

「あっけないほどカンタンだった自然エネルギー切り替え顛末記」

出展／協力／登壇／イベント

野沢温泉村 『Hot&Cool Moms Meeting』

エイブル白馬五竜『Mountain Festival』

岩岳マウンテンリゾート『HAKUBAヤッホー!FESTIVAL ―白馬ノ映画』

POW JAPAN事務局より

寄付総額 5,207,862円

寄付人数　451名

（2019年2月～2020年10月）

日頃からPOW Japanの活動をご支援いただきありがとうございます。POW Japanは「私たちの愛する冬を気候変動から守り、未来につなぐ」という理念の下、非営利の環境団体として活動を行っています。そのため、団体運営やキャンペーンの費用の大きな部分を寄付金に頼っています。雪山や冬を愛する仲間のサポートが、POW Japanの活動をよりパワフルで効果的なものへと押し上げます。

個人サポーターになる
https://protectourwinters.jp/supporter/

メールニュースを受け取る
https://protectourwinters.jp/mailnews/

POW
PROTECT OUR WI